

「高すぎる」異論相次ぐ

大島 田中浜 県が三つの防潮堤計画案

県が気仙沼市大島の田中浜に計画している防潮堤と防災林の意見交換会が30日、大島開発総合センターで開かれた。県は海拔11・8メートルの堤防高で3案を示したが、住民からは「景観が台無し。観光の島には死活問題だ」「防潮堤ありきではなく、島で暮らす人の意見を聞いてほしい」などと異論が相次いだ。

県が意見交換のため示した検討案は①既存の防潮堤位置を先端とした傾斜堤②環境省の園地を活用するための直立堤③直立堤への

傾斜堤は歩いて登れるほどの勾配だが、直立堤の海側は急勾配になる。直立堤は急勾配にした分、堤防の底地幅は傾斜堤（約70メートル）の半分で済み、海側の土地が広く確保できる。防災林は国の基準を受け、津波減衰効果がある50メートルで堤防背後地に整備する。市は「レベル1堤防

は必要。県との調整で県道兼用案を加えてもらい、道路が堤防の天端を走るように要請している」との見解を説明。3案とも環境省の体験施設にかかると、すでに復旧しており、「環境省として再建する予定はないと聞いている」と報告した。今のところ、背後地の土地利用計画もないという。

県はレベル1堤防を造らなかつた場合の明治三陸級津波の浸水想定域も示した。浸水域に民家はないが、1軒の新築予定があり、

「数十センチから1メートルほど津波がかかる可能性がある。県道も含めて守るべきものはある」と堤防の必要性を強調した。

出席した住民の多くは「大島の将来をどうするかという観点がない」「防潮堤の海側に防災林を整備してほしい」と提示案を拒否。一方で、「子々孫々まで安全な高さで造ってほしい」と賛成意見もあった。

反対意見を受け、県気仙沼地方振興事務所農林振興部は「この場で方向転換は明言できない。本当に必要かどうかを含めて今後も皆さんと議論したい」と語った。

小田の浜の意見交換会は、きょう1日午後3時から大島開発総合センターで開かれる。



田中浜の意見交換会